

第51期 報告書

2025年6月1日 ▶ 2026年5月31日

株主の皆様へ

2026年5月期業績（連結）

2026年5月期セグメント別概況（連結）

2027年5月期業績見通し（連結）

2026年5月期海外業績の概況（連結）

サステナビリティ活動

株主様アンケート結果のご報告

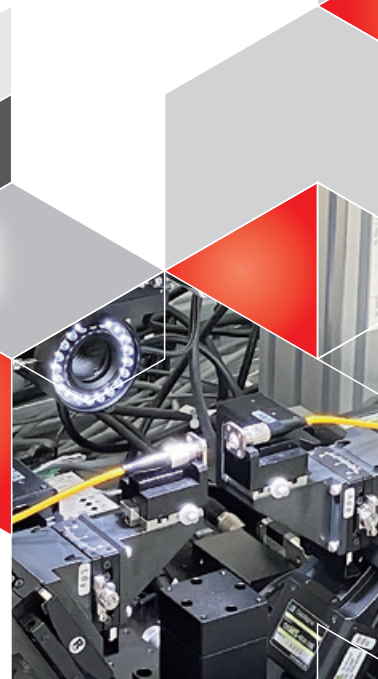
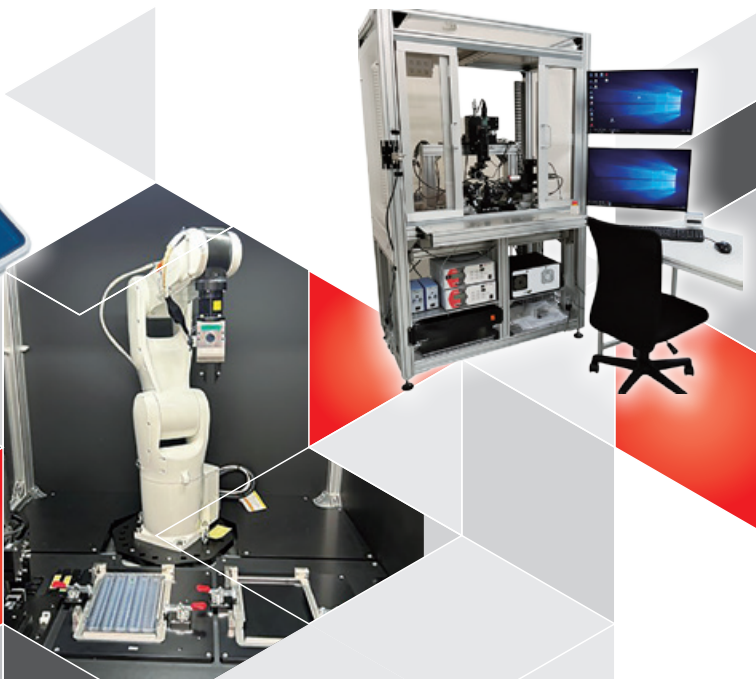
連結財務諸表

株式の状況／会社概要

Topics

- こんなところにシグマ光機 ― 光電融合
- 製品紹介 体水分計（ハイドロバランスメータ）/ HBL5-03
- 新製品紹介 真空環境用集光レンズ（HFDLSQ-V/HFTLSQ-V）

Light Solutions for Life[®]
光なら、きっとできる。



経営理念

我社は光産業を通じ、社会に貢献します。



長期視点に基づく重点戦略を通じて、企業価値最大化を目指します。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

世界経済は依然として先行き不透明な状況が続きましたが、需要環境はエレクトロニクス業界等を中心に当期後半に向けて回復基調で推移いたしました。特に、AI向けデータセンターや半導体等の産業分野を中心に、電気技術と光技術を融合する「光電融合」の実用化が進んでおり、旺盛な需要が期待されております。また、長寿・健康社会へのニーズが高まる中、光技術を活用した医療・介護ソリューションにも期待が寄せられました。

このような中、当社グループにおいては、売上高は前年同期比1.2%減の11,439百万円、営業利益は同4.3%増の1,179百万円となりました。売上高が第3四半期末までの落ち込みを挽回するまでには至らなかったものの期末に向けて底堅く推移する中、人的投資及び設備投資等により費用が増加いたしました。取引価格の見直し等の様々な利益向上策や費用削減活動により、減収増益となりました。

今後も、長期的な視点からのビジョン浸透と風土改革、技術投資と人的投資等の成長投資を継続し、光技術の可能性を形にしていまいります。様々なステークホルダーの皆様への感謝を胸に、飽く無き挑戦と価値ある創出を通じて、持続可能な事業成長とともに、地球上の「いのち」や「くらし」に貢献してまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも何卒ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

シグマ光機株式会社

代表取締役社長 近藤 洋介

先行き不透明感が強い中、
エレクトロニクス業界を中心に第4四半期から持ち直し。

世界経済は、不透明感が強い状況が続きました。当社においては、特定顧客及び特定業界向けの業績依存度が低い中、エレクトロニクス業界の業況の影響を受けました。海外地域向けの需要は、米国地域及び中国地域等の産業分野を中心に回復基調で推移し、東南アジア地域では研究開発分野向けを中心に底堅く推移いたしました。この結果、第3四半期までは厳しい環境の影響を受けて前年を下回る水準で推移する中で、第4四半期から持ち直しましたが、通期では前年同期の業績にわずかに届かない結果となりました。

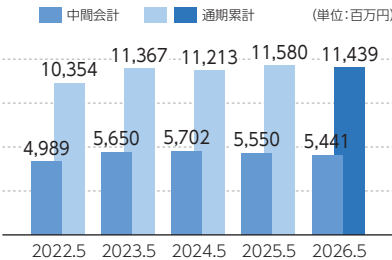
人的投資等が続く中、
販売単価の改善等により増益。

持続的な事業拡大に向けた人的投資や新工場棟の稼働開始、研究開発投資等により労務費や人件費、減価償却費等が増加いたしました。そのような中、価格改定により販売単価が改善した他、グローバル生産体制の強化による供給力の向上や、生産技術や生産性の向上等による生産コストの削減及び全社的な業務効率化等の費用削減活動に取り組みました。その結果、昨年度に実施した米国子会社の拠点移動に伴う費用の剥落もあり、営業利益は前年同期比で増加いたしました。

2026年5月期業績（連結）

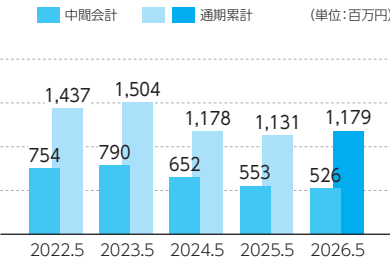
売上高 114億39百万円

(前期比 1.2%減)



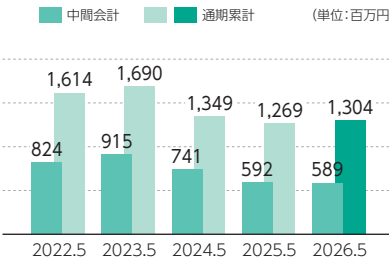
営業利益 11億79百万円

(前期比 4.3%増)



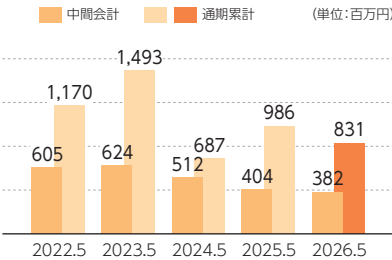
経常利益 13億4百万円

(前期比 2.8%増)

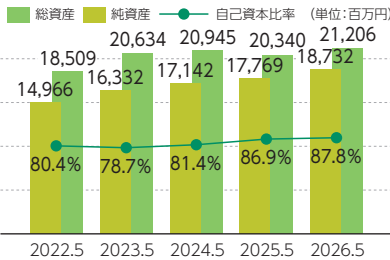


親会社株主に帰属する当期
(中間)純利益 8億31百万円

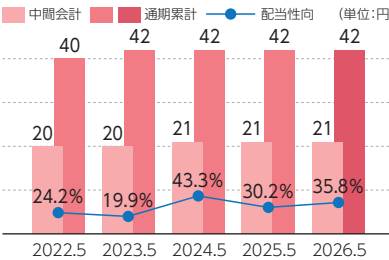
(前期比 15.7%減)



総資産・純資産・自己資本比率



配当金、配当性向



2026年5月期セグメント別概況（連結）

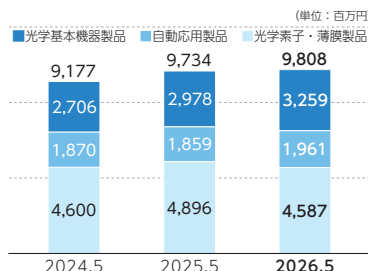
▶ 要素部品事業

■ 売上高



0.8% 増

（前期比 73百万円増）



POINT

**成長と停滞が混在の中、
総じて横ばい**

光学基本機器製品は、昨年度に実施した価格改定の効果が当期を通じて得られたとともに、海外地域向け及びエレクトロニクス分野向けが堅調に推移いたしました。自動応用製品では、調芯システムが好調に推移したとともに、バイオ業界向けにおける一部の大口顧客向け等が堅調に推移いたしました。半面、光学素子・薄膜製品は、エレクトロニクス分野向けにおける一部の大口顧客向けが停滞したこと等により、当事業セグメントは総じて横ばいに推移いたしました。

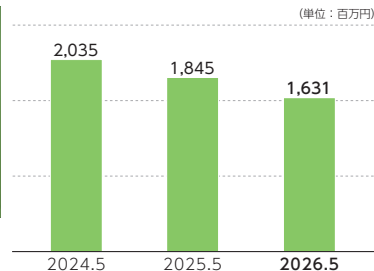
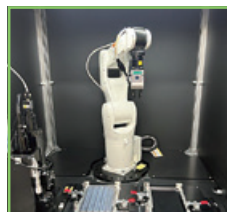
▶ システム製品事業

■ 売上高



11.6% 減

（前期比 214百万円減）



POINT

**大型案件の反動減等により
医療業界向け低調。**

光学システム製品は、エレクトロニクス業界向けにおける製造装置・検査装置への組込み用途の光学ユニット製品及び光学システム製品が総じて軟調に推移いたしました。医療業界向けは、放射線測定関連の組立案件の需要が増加した半面、大型診断装置の組立案件の反動減等により、低調に推移いたしました。その他、防衛業界向けの光学システム製品は堅調に推移いたしました。当事業セグメントは総じて軟調に推移いたしました。

2027年5月期業績見通し（連結）

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	配当額 (通期累計)
11,880 百万円	1,355 百万円	1,440 百万円	975 百万円	50 円
（前期比3.9%増）	（前期比14.9%増）	（前期比10.4%増）	（前期比17.3%増）	配当性向（見通し） 36.3%

外部環境

- 世界経済の先行きは不透明な状況が継続
- 前年度後半から、主要マーケットを中心に需要が回復基調で推移

売上高

- 米国・中国を中心に海外地域向け増加
- 電子部品・半導体業界向けが回復基調
- 調芯関連等の自動応用製品の需要が堅調

営業利益

- 製品MIX改善により収益性改善
- 人的投資の増加継続
- 設備投資・減価償却費の増加
- 研究開発投資の継続等

配当額

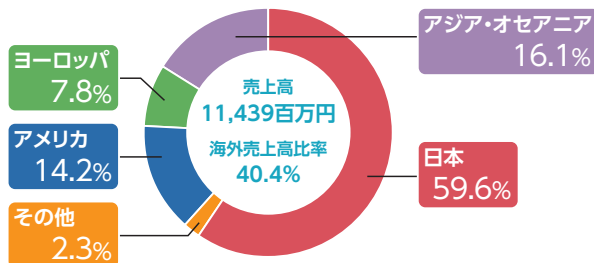
- 配当性向30%を目途とした安定配当の継続

2026年5月期海外業績の概況（連結）



●顧客所在地別概況

■海外売上高構成比



■顧客所在地別売上高・営業概況

日本	6,817 百万円	需要は回復基調も、光学素子・薄膜製品及びシステム製品が軟調。
アメリカ	1,624 百万円	先行き不透明な状況の中、米国子会社の受注高改善をはじめ需要が堅調に推移。
ヨーロッパ	889 百万円	ドイツ孫会社の受注高が伸びるも、フランス子会社の売上高の回復が遅れ、総じて弱含みで推移。
アジア・オセアニア	1,845 百万円	中国経済の回復基調を中心に総じて堅調。東南アジア向けは横ばい。
その他	262 百万円	欧州子会社の事業活動を中心にイスラエル等の中東地域の需要が増加。

》グループ会社概況



2026年3月期は、米国経済の先行き不透明な状況の下、厳しいスタートとなりました。そのような中、利益率の改善及び受注拡大に取り組んだ結果、営業利益の黒字化及び多額の受注残高を獲得することができました。また、マーケティング戦略の改善等により、ブランド認知度も向上し、Web経由の売上高は+39%成長、売上高構成比の10%以上を達成いたしました。2027年度は、システム製品や特注製品を中心に、新規OEM案件の獲得及び更なる販売機会の拡大を目指してまいります。



2026年3月期は、地政学リスクの高まり等により、厳しい一年となりました。売上高は前期比横ばいとなり、営業利益は予算を下回りました。一方、ドイツ子会社は新規OEMを獲得し、受注高が大幅に増加いたしました。原材料価格の上昇等によって利益が圧迫される中、積極的な成長投資を実施いたしました。主な投資内容としては、OEM顧客への対応力の強化を目指して、技術体制を構築いたしました。光学・電気・ソフトウェア等の専門性を揃えた技術チームを構築し、顧客ニーズ対応力及び技術サポート力を強化いたしました。



2026年3月期の売上高は、前期比1.1%増の44.4百万円となりました。米国の関税政策の影響もありましたが、新規製品の取り込みの拡大等により、その影響を抑えることができました。今後も、グループ内のBCP生産体制の構築や新技術の積極的な導入を進めるとともに、「品質第一」の姿勢を貫き、お客様のニーズに的確に応えてまいります。

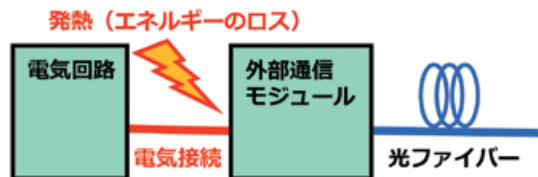


2026年3月期は、厳しい事業環境の中、売上高は前期比3%減となりましたが、黒字を達成し、堅調な受注残高を獲得できました。これは、営業費用の効率化、OEMの需要増加、調芯システムの販売伸長、並びにタイアップ製品事業の拡充等によるものです。2027年度には、産業分野及び研究機関との連携を強化し、光ソリューション市場でのリーダーシップをさらに強化してまいります。また、OEM/パートナーシップの強化に加えて、システム製品や特注対応等の高付加価値製品の販売拡大を通じて、持続的な成長を目指してまいります。

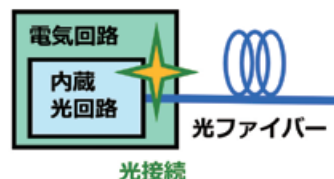
AI向けデータサーバーや半導体内では、情報処理やデータ伝送の一部を従来の電気信号から光信号へ置き換える「光電融合」の実用化が進んでいます。

光は電気信号に比べて大容量・高速伝送に優れており、省エネルギー化や高速化が期待されています。一方、光伝送では、光ファイバーや光デバイス間のわずかな位置ずれが結合効率や伝送品質に大きく影響するため、高精度な光軸調整を行う技術が不可欠です。

従来（電気配線）



将来（光電融合）



■光電融合の課題

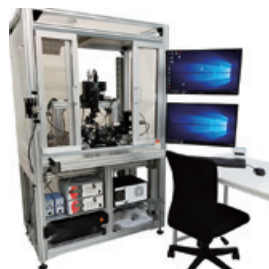
- 光接続部のナノ単位的位置決め
- 位置決めと光学評価の同時実行
- 高精度かつ高速自動調芯

■シグマ光機の製品： 調芯システム

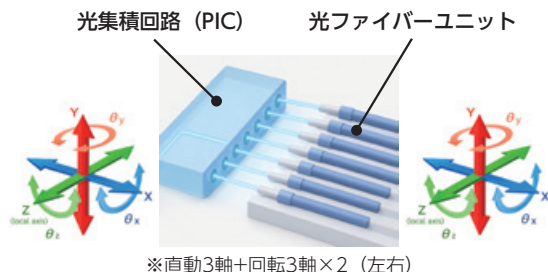
光電融合デバイス等における光モジュールの組立及び性能評価を支えています。

光集積回路（PIC）及び光電融合（CPO）の市場拡大に伴い、高精度調芯システムの需要増加が期待されています。

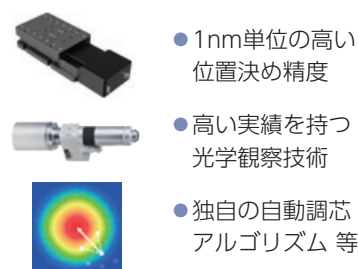
調芯システム



自動調芯の例（※左右12軸）



シグマ光機のコア技術



- 1nm単位の高い位置決め精度
- 高い実績を持つ光学観察技術
- 独自の自動調芯アルゴリズム等

※調芯

光学部品同士の光軸（光の中心）を正確に合わせること。位置や角度がずれると、光漏れや反射が発生し、接続損失（エネルギーのロス）の原因となるため、高精度な位置決めが必要です。

■シグマ光機の調芯システムの特徴

- 15年以上にわたる調芯システムの開発・導入実績
- 約90%の高い内製化率とシステム統合力
- 豊富なユニットラインナップと柔軟なカスタム対応

調芯装置構成図はこちら▶





HBSL-03

指に挟むだけで水分量を簡単測定！

一般医療機器 特定保守管理医療機器

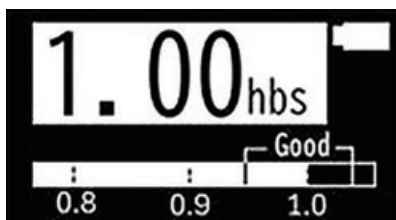
本製品は血管内の水分を測定する製品です。

水分に吸収されやすい波長と、赤血球に吸収されやすい波長の二つの光を指先に当てて、透過した光量の変化を計測し、その比率を計算することで血液の中の水分バランスを推定、数値化します。

熱中症や脱水症等の予防対策への貢献が期待されます。

担当者コメント：技術本部 森尾さん

熱中症や脱水症は、高齢者に限らず、子どもや働く世代にも社会課題となっています。一方、自分の水分状態を把握する手段は限られ、「のどが渴いた」と感じた時には既に脱水が進行している場合もあります。私たちは光学技術を活用し、採血不要で血液の水分バランスを数値化できる製品を開発しました。当社が把握する限り、世界初の製品です。医療・研究機関、実際の利用現場の声を取り入れ改良を重ねてきました。おかげさまで、医療機関だけでなく、在宅高齢者、土木・建築現場、スポーツ・教育現場からのお引き合いを多くいただいております。体水分計を通じて健康管理を支援し、熱中症や脱水症予防に貢献することで、安全で健康的な社会の実現を目指します。今後も新たな価値創出に挑戦してまいります。



測定結果表示画面

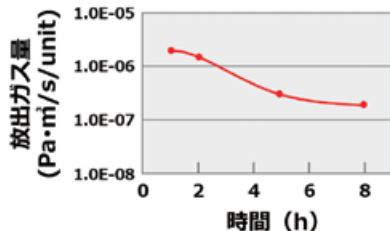
Topics 新製品紹介 真空環境用集光レンズ（HFDLSQ-V/HFTLSQ-V）



HFDLSQ-V/HFTLSQ-V

真空環境でも高精度な集光性能を実現！

- ・アウトガスの放出を防ぐため、鏡筒に表面処理の無いステンレス材を使用しています。
- ・鏡筒には、ネジ部とレンズ間の空気を排出するためのガス抜き用の溝が設けられています。
- ・レンズは、すべて合成石英を使用し、高出力レーザや高エネルギーのパルスレーザにも耐えられます。
- ・Ybファイバーレーザをはじめ、各種固体レーザの集光及びコリメートに使用できます。
- ・焦点距離60mm以上のレンズは、設計波長で球面収差やコマ収差が補正されており、レーザコリメート光をほぼ回折限界に近いスポット径に絞り込むことができます。



放出ガス量の時間変化

主な特長

- 真空対応構造
- 高出力レーザ対応
- 高透過率（最大98.5%以上）
- 回折限界に近い集光性能

用途例

- 真空チャンバー内でのレーザ加工
- レーザ評価・検査装置
- 高出力レーザの集光・コリメート

詳しくはこちら▶



女性活躍推進法に基づく行動計画を策定しました

この度、女性活躍推進法に基づく行動計画を策定しました。

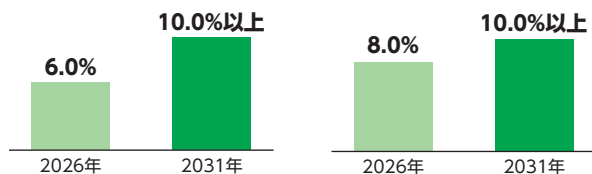
今後、本計画に沿って、女性をはじめとするすべての従業員の継続就労及び働きがいのある職場風土を目指していきます。

計画期間 2026年4月1日～2031年3月31日（5年間）

(1) 女性労働者に対する職業生活に関する機会の提供

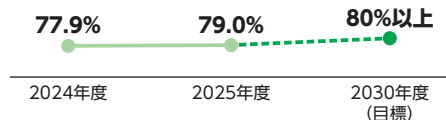
目標1：開発職種における
女性労働者比率

目標2：管理職に占める
女性労働者比率



(2) 職業生活と家庭生活との両立に資する雇用環境の整備

目標：有給休暇取得率



■ 従業員のキャリア支援及び人材の活性化に努めています

当社は、急速に変化する社会環境の中で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。従業員一人ひとりがそれぞれの能力を発揮し、その力が組織のパフォーマンス最大化へと波及することで、組織全体の競争力強化につながる好循環の実現を目指しています。第51期は新しい試みとして、中堅社員向け研修と女性社員向け研修を合同で開催しました。研修では、従業員のキャリア形成の支援及び従業員同士のコミュニケーション機会の提供を通じて、自身のキャリアを見つめる機会を創出するとともに、多様な価値観を受け入れる風土の醸成を図りました。



女性活躍推進法に基づく行動計画の詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.sigma-koki.com/sustainability/social/employee/>



気候変動への取り組み：CO₂排出量の削減

2025年4月から東京本社の電力を非化石証書付き電力へと転換しました。今後も、再生可能エネルギーの導入や、業務効率化及び省エネ・省資源の推進、及び会社保有車両の台数低減等、CO₂の排出量の低減に取り組んでいきます。

	2025年	2026年	増減率
CO ₂ 排出量(t) ※Scope1+2	2,044	2,028	△0.8%
(参考) 再生可能エネルギーによる 発電量のCO ₂ 換算値 (t)	245	330	+34.6%
(参考) 非化石証書付き電力による 電力使用量のCO ₂ 換算値 (t)	—	81	—

※シグマ光機単体の実績となります。

※前年4月1日～当年3月31日の実績を集計しています。

光学分野を担う次世代人材育成に貢献



東京大学を中心として発足した大学院教育プログラム「先端レーザー科学教育研究コンソーシアム（CORAL）」に発足当初から参画し、光学分野を担う次世代人材育成に貢献しています。

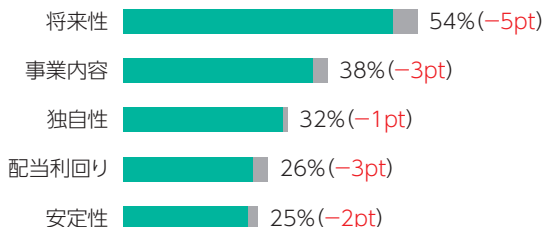
株主様アンケート結果のご報告

株主様アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

第51期中間報告書で実施したアンケートは、当社の全株主様5,826名（2025年11月30日時点）の約3%を超える198名（前年同期比22名減）の株主様からご回答いただきました。

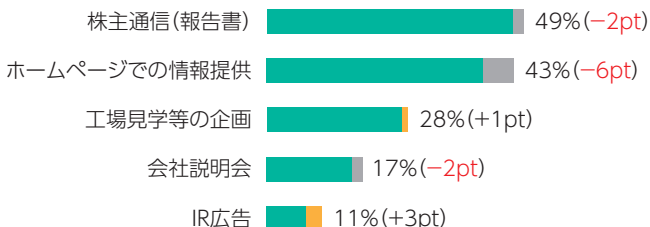
皆様よりお寄せいただいたご意見・ご要望等は、今後の会社経営及びIR活動に活かしてまいります。

● 当社株式を購入された理由 複数選択



※括弧内は、対第50期中間比

● 充実を期待するIR活動 複数選択



※括弧内は、対第50期中間比

IR担当者からのコメント

今回は、一人当たりの回答数の減少（2.6→2.4）等により、全体的に回答比率（回答数÷回答者数）が減少いたしました。引き続き「将来性」、「事業内容」等に高いご期待をいただいている中、持続的な価値創造と早期の収益性向上、株主還元等の戦略的な資源配分等を推進し、企業価値向上に努めてまいります。

IR担当者からのコメント

引き続き「株主通信（報告書）」、「ホームページでの情報提供」の充実に高いご期待が寄せられる中、「メールでの情報提供」が1pt増加（9%→10%）も、「IR広告」が3ptと大きく増加して順位が上昇いたしました。本アンケートを通じて株主様からいただいたご意見等を踏まえて、より広く・より多くの株主様との対話の機会の充実等に取り組み、株式市場からの適切な企業価値評価の獲得に努めてまいります。

株主様からのご質問・ご意見

Q 中長期（3年～5年先）の将来計画を教えてください。

A 光技術は、私たちの生活の様々な場面で活用されており、年々その重要性が高まっております。足元では、半導体業界向け等が業績を牽引する中、光電融合を大きな成長機会と捉えております。加えて、医療・介護分野を次なる収益の柱として育成するとともに、量子・宇宙等の先端分野向けの需要獲得を進めてまいります。幅広い業界での光技術需要の拡大を背景に、先行投資を確実な成果へつなげ、持続的な事業成長と収益性向上を通じた企業価値向上を実現してまいります。

Q AIデータセンター関連企業の業績が上がっているが、御社にも恩恵はあるのか。

A 近年、AIデータセンターでは、省エネ等に向けて、光電融合の導入が進んでおります。光電融合の実現には、従来より1桁以上の微細な位置決めと、光学評価を同時に行う必要があるため、関連技術を実装した当社の調芯システムの需要が増加しております。また、AIデータセンター向けの半導体等の生産工程においても、加工装置・検査装置等向けの光学部品・モジュールの需要が増加しております。AI需要拡大を追い風に、需要獲得による企業価値向上に取り組んでまいります。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期 2026年5月31日現在	前 期 2025年5月31日現在
(資産の部)		
流動資産	12,371	11,943
固定資産	8,835	8,396
有形固定資産	4,709	4,746
無形固定資産	75	70
投資その他の資産	4,050	3,579
資産合計	21,206	20,340
(負債の部)		
流動負債	1,716	1,756
固定負債	757	814
負債合計	2,474	2,571
(純資産の部)		
株主資本	17,029	16,495
その他の包括利益累計額	1,584	1,172
非支配株主持分	118	101
純資産合計	18,732	17,769
負債・純資産合計	21,206	20,340

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 2025年6月 1日から 2026年5月31日まで	前 期 2024年6月 1日から 2025年5月31日まで
売上高	11,439	11,580
売上原価	7,045	7,254
売上総利益	4,394	4,325
販売費及び一般管理費	3,214	3,194
営業利益	1,179	1,131
経常利益	1,304	1,269
親会社株主に帰属する当期純利益	831	986

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 2025年6月 1日から 2026年5月31日まで	前 期 2024年6月 1日から 2025年5月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	909	379
投資活動による キャッシュ・フロー	△248	△418
財務活動による キャッシュ・フロー	△444	△601
現金及び現金同等物に 係る換算差額	178	△28
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	394	△667
現金及び現金同等物の 期首残高	3,284	3,904
現金及び現金同等物の 期末残高	3,679	3,284

》 解 説 ポ イ ン ト

● 連結貸借対照表

＜資産の変動＞

流動資産は、現金及び預金、売掛金がそれぞれ増加しましたが、有価証券が減少したこと等により、前期末比で3.6%増加しました。固定資産は、投資有価証券が増加しましたが、建物及び構築物が減少したこと等により、前期末比で5.2%増加しました。この結果、総資産は、前期末比で4.3%増加しました。

＜負債の変動＞

流動負債は、買掛金が増加しましたが、未払法人税等、短期借入金がそれぞれ減少したこと等により前期末比で2.3%減少しました。固定負債は、長期借入金が減少したこと等により前期末比で7.0%減少しました。この結果、負債合計は、前期末比で3.8%減少しました。

＜純資産の変動＞

純資産は、前期末比で5.4%増加し、自己資本比率は、87.8%となりました。

● 連結キャッシュ・フロー計算書

当期の現金及び現金同等物は、前期末比で3億9千4百万円の増加となりました。

＜営業CF＞

営業CFは、税金等調整前当期純利益、資金流出を伴わない減価償却費の計上でそれぞれ増加しましたが、法人税等の支払額、売上債権の増加でそれぞれ減少したこと等により資金を9億9百万円獲得しました。

＜投資CF＞

投資CFは、資金運用の見直しに伴う有価証券の純減額による増加がありましたが、投資有価証券の取得による支出、有形・無形固定資産の取得による支出でそれぞれ減少したこと等により資金を2億4千8百万円使用しました。

＜財務CF＞

財務CFは、配当金の支払額、長期借入金の返済による支出等でそれぞれ減少したこと等により資金を4億4千4百万円使用しました。

詳細な情報はこちらをご高覧ください。<https://www.sigma-koki.com/ir/document/>



株式の状況／会社概要

株式の状況 (2026年5月31日現在)

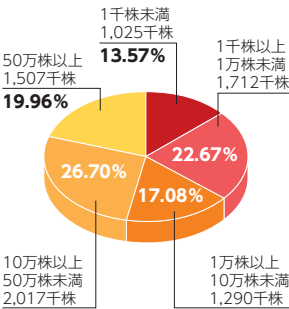
発行可能株式総数 32,000,000株
発行済株式総数 7,552,628株
株主数 7,112名
(前期末比1,292名増)

主要株主

株主名	所有株数(千株)	持株比率(%)
浜松ホトニクス株式会社	1,000	14.11
シグマ光機取引先持株会	507	7.16
光通信KK投資事業有限責任組合 無限責任組合員光通信株式会社	408	5.76
株式会社ツシマ	228	3.23
シグマ光機従業員持株会	212	3.00
富国生命保険相互会社	200	2.82
株式会社サンライズフリエート	148	2.09
株式会社埼玉りそな銀行	128	1.80
杉山大樹	110	1.56
株式会社三井住友銀行	110	1.55

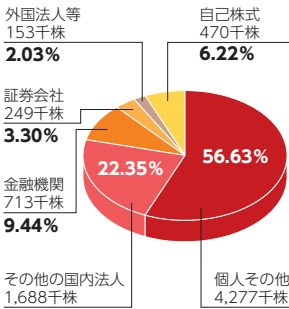
- (注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。
3. 持株比率は、自己株式 (470,456株) を控除して計算しております。

所有株数別株式分布状況



- (注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。
3. 自己株式 (470,456株) を含んでおります。

所有者別株式分布状況



会社概要 (2026年8月27日現在)

社名	シグマ光機株式会社
本社	埼玉県日高市下高萩新田17番地2
設立	1977年 (昭和52年) 4月
資本金	26億2,334万円
従業員数	386名 (2026年5月31日現在)
役員	代表取締役社長 近藤 洋介 取締役 石井 康之 取締役 多幡 能徳 取締役 小林 友博 取締役 (社外) 野崎 誠 取締役 (社外) セットジイヨン 取締役 (社外) 石塚 利道 取締役 (社外) 池田 記子 常勤監査役 玉田 保 監査役 (社外) 上野 健司 監査役 (社外) 南 雲 幸一

(注) 社外取締役 野崎誠氏、セットジイヨン氏
及び池田記子氏、社外監査役 上野健司氏の
4氏は独立役員であります。

主な事業所

- 本社・日高工場 ●東京本社 ●大阪支店
- 九州営業所 ●能登工場 ●技術センター

関連会社

- OptoSigma Corporation
- OptoSigma Europe S.A.S.
- OptoSigma Southeast Asia Pte. Ltd.
- OptoSigma Germany GmbH
- 上海西格瑪光机有限公司
- 上海西格瑪綜合國際貿易有限公司
- LMS株式会社
- タックコート株式会社

当社の報告書は、「UDフォント」を採用しております

視認性、判読性に優れたユニバーサル
デザイン(UD)書体を使用し、弱視・老
眼等視力の低下にお悩みの方にも読
みやすいよう配慮をしております。

文字使用例
(従来)

S36

(UDフォント)

S36

株主メモ

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会 毎年8月開催
基準日 定時株主総会 毎年5月31日
期末配当金 毎年5月31日
中間配当を行う場合は、毎年11月30日

単元株式数 100株
公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
電子公告URL <https://www.sigma-koki.com/>

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の【特別口座について】をご確認ください。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  **0120-782-031** (通話料無料)
(インターネット ホームページURL)
<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、みずほ信託銀行株式会社に口座(特別口座といます)を開設しております。左記株主名簿管理人とはご照会先及び住所変更等のお届出先が異なりますのでご注意ください。

〈特別口座に関するご照会先〉

(特別口座 口座管理機関) みずほ信託銀行株式会社
(郵便物送付先) 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)  **0120-288-324** (通話料無料)

株主の皆様の声をお聞かせください



当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

右記URLにアクセスいただき、
アクセスキー入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー 7713yYmN



スマートフォンから
カメラ機能でQRコードを読み取り

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」  koekiku@pronexus.co.jp



シグマ光機株式会社
東京本社 東京都墨田区緑1-19-9
TEL.03-5638-8221 (総務部)

